

協和マリナホスピタル緩和ケア病棟への入院をお考えの患者さん・ご家族のみなさまへ

緩和ケア病棟の説明書

緩和ケア病棟は、癌により生じる苦痛な症状をできるだけ緩和して、少しでも楽に、穏やかに過ごしていただくための治療を行う場所です。

癌による苦痛症状で最も多い症状が痛みです。痛みの強さに応じて、いろいろな痛み止めを使用しますが、必要であれば医療用麻薬の痛み止めも使用します。医療用麻薬を使用すると、眠気、吐き気、便秘などの副作用が生じることがありますが、副作用対策をしながら使用します。

次に多い症状は全身のだるさ、しんどさで、ステロイドという薬を使うことがあります。

その次に多い症状は息苦しさで、酸素を吸っていただいたり、息苦しさに対して医療用麻薬を使用したりすることもあります。

患者さんによって症状は異なりますが、いずれの症状に対しても、薬やケアで少しでも緩和できるように努めていきます。

しかし、実際には、どれだけ薬を使用しても、痛み、しんどさ、息苦しさ、吐き気、腹部膨満感、せん妄(あとで説明しています)などの苦痛症状が緩和できないことがあります。そのような時には、患者さんやご家族と相談し、ウトウトと眠る点滴をして意識を低下させ、苦痛を感じにくくする方法(鎮静)をすることがあります。

癌による衰弱が進行してくると、意識障害(せん妄)が生じてくることがあります。せん妄が生じると、会話がかみ合わなくなったり、おかしい言動をしたり、幻覚を見たりするようになります。せん妄はかなりの頻度で生じ、衰弱の進行に伴って生じてくることが多いです。

せん妄が生じると、ご自分の動ける力を考えることなく、ベッドから一人で動いてしまい、ベッドから落ちたり、転倒したりすることがあります。そうすると、センサー類を用いて転倒予防対策を講じますが、センサーが鳴って行くとすでに転倒されていたということもありますので、せん妄が生じた時には、転倒などの可能性も高くなることをご理解ください。

緩和ケア病棟では、癌の治療(手術、放射線、抗癌剤、民間療法など)はしません。

人工呼吸器、心臓マッサージ、電気ショック、血圧を上げる薬の使用、人工透析、輸血など、延命処置は一切行いません。心電図も使用しません。消化管ステントや胆管チューブなどの挿入や交換はできません。

徐々に衰弱されていく方が多いですが、急変されて最期を迎えられる方もおられます。急変時にも延命処置は行わず、できるだけ穏やかに最期を迎えていただけるように、緩和治療とケアを行います。

癌の進行によってみなさん飲食できなくなりますが、その時には水分補給目的の点滴はすることが多いですが、太い血管に管を新たに挿入して高カロリー点滴をしたり、胃に管を新たに挿入して栄養剤を注入したりはしません。胸水や腹水が溜まったり、浮腫が強くなるなどの水分貯留傾向があれば、点滴は減量したり中止したりします。

患者さんは少量の飲酒は可能ですが、喫煙は禁止で、喫煙のために敷地外にお連れすることもしません。